

2011.5.27 「海水注入は、結果オーライではすまない」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は5月27日です。菅総理はサミットに出席しており国会にはいらっしやいませんが、参議院で今日の午後から原発事故の参考人質疑を行うということです。その中で、なぜメルトダウンが起こったのか、そして初動体制に間違えはなかったのか等、参考人の方々から様々な意見を聞いて原因を明らかにしたいと思っています。先日から報道されておりますように、官邸内で菅総理が、海水注入を行うと再臨界が起こる危険性があると思いついていたわけであり、そして、彼が騒ぎ出した為に東電は海水注入をストップせざるを得ず、結局55分間海水注入が中断されたためにメルトダウンが起きたと言われています。これは菅総理の責任ではないかと取沙汰されているわけでもあります。また、今日の朝刊には、東電側からの指示であったのかはわかりませんが、発電所所長の判断で海水注入をしてでも冷却をしなければならぬので海水の注入を継続していたとあります。そうなりますと海水注入の中断は無く、政府側の対応には問題が無いことになり、結果的に「海水注入を継続してきたのだから、我々政府側には責任は無く、やるべきことを行ってきたのだ」と言うわけです。その上、政府や民主党は「そのような間違った情報で菅総理に揶揄している自民党がおかしいのだ」とも言っています。私はあきれて開いた口がふさがりませんでした。

そもそも、そのような情報を出してきたのは政府であり、海水注入がなされなかったと自ら発表したのです。現実問題、海江田大臣は他の答弁においてもそのように発言されています。元々事実としては海水注入を継続していたのに、その現場の情報が官邸に入っていなかったということ自体がまさに危機管理の欠如です。更には、危機管理時に一番重要である判断を全く知識の無い素人の菅総理が騒ぎ立てたために情報が錯綜し、現実には海水注入を継続しているのにもかかわらず、官邸は誤った情報をだし、それに則り行動していた形跡があります。そうしますと、二重にも三重にもおかしいことがあるわけで、結果オーライだから問題ないということ自体あり得ないことなのです。このことが本当に真実なのか未だ確定していませんが、少なくともこの問題によって日本は国内外問わず大きな信用を失ったわけです。

つまり、官邸が機能していないことが内外に明らかになったのです。原子力発電所を 50 基以上抱える世界一の先進科学立国がこのような形で失態を演じてしまった。政府の責任は非常に大きいわけです。被災地である福島の方々は、我々の命や財産はこのような政府に任せておいて大丈夫なのかと、ますます不安に陥っておられると思います。そのようなことを含め、私達はこの原子力問題の事実関係を国民に知らせなければいけませんし、初動体制の誤りがあったのかどうかを確かめるためにも時系列でしっかりと証拠立てた資料が必要であります。ところが、現在の菅政権では国会においても、出鱈目を言いま

すし、官邸の機能がマヒしているというこが今回の東電の発電所所長の発言から明らかになったわけです。つまり、統治者能力が無いわけですから、直ちに菅政権を政権から退かせて新しい政権の下で事実関係を確かめる以外に方法はないと思っております。来週はそのようなことも含めて大詰めになってくると思います。是非、皆様方と一緒に日本の国を守るためにも菅政権を一日も早く打倒するということをお誓い申し上げまして、今日のビデオレターを終わらせていただきます。ありがとうございました。